

# 鉄作り熱さとの闘い

大原小児童が体験



高温となった炉に炭と砂鉄を投入する大原小の6年生

一関市大東町の大原小学校（小島正明校長、児童146人）のたたら製鉄体験は8日、大原内野学習館で行われた。6年生23人が自分たちの手で採取した砂鉄を鉄にしようと炎や熱と闘い、地元の歴史や文化に理解を深めた。

製鉄の実践や調査などに取り組む住民団体・ホッパの会（勝部昌平会長）が協力。江戸時代以前から地域で行われてきた製鉄について学んでもらおうと旧内野小時代から毎年行われている。

同日は、児童が7月に砂鉄川で採取し、不純物を取り除いた砂鉄約50kgを使用。たら砂鉄は、炉に砂鉄と炭を交互に入れながら風を送り、炉内の温度を1300度超まで高め、化学反応で

砂鉄中の酸素などを取り除き純度を高める。

児童は会員から説明を受けた作業を開始。分担して炭を碎くと、時間を計って一定量の砂鉄と炭を炉の中に投入した。

投入の際には専用の防護ヘルメットと軍手を着用。

新沼良孝君は「炉の前では、少しでも肌を出

しているとやけどしそうなくらい熱かった」、加賀奈緒さんは「炉の中に

炭と砂鉄を同じ量入れるのが難しかった」と製鉄の苦労を語った。

この日は屋内と屋外二

つの炉で約15kgの鉄を製

造。主に刃物に加工され

るが、地元の技術者と相

談し、鑄物などの製作も

検討している。勝部会長

は「かつては製鉄が盛ん

で大変栄えており、刀ための玉鋼もたくさん

られたという歴史を子

たちに感じてほしい」

話していた。